

# 令和4年度 ブロック別研修会の取組 実践発表 ～高岡北ブロック 加茂保育園～

## 1 園の概要

### 【保育目標】

- ・あいさつができ、元気で素直な子ども
- ・みんなと遊べる明るい子ども
- ・人を思いやるやさしい子ども
- ・心豊かで、よく考える子ども

### 【保育理念】

心身ともにたくましく、豊かな人間性を持った  
子どもを育てる

### 【めざす子ども像】

- 1歳未満児…表情豊かな子どもに
- 1歳児 …人好きな子どもに
- 2歳児 …元気にみんなと遊べる子どもに
- 3歳児 …生活リズムの中で自分の生活が分かる子どもに
- 4歳児 …友だちと自分との関係がわかり、カいっぱい  
遊びきれる子どもに
- 5歳児 …集団の中で自分を生かし、友だちのこと、みんなのことを考えられる子どもに

年齢	1歳未満児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
クラス名	ひよこ組	りす組	さる組	うさぎ組	きりん組	ぞう組	
園児数	3	6	5	6	7	5	32
担任（加配）	2		1	1	1（1）	1	7
その他	園長 1 調理員 2 フリー 1 早出パート 2 居残りパート 1						

## 2 研修目標

「一人ひとりが自分らしく遊べる環境構成について」

## 3 研修目標設定の理由

本園は自然に囲まれ、四季を感じられる環境にある。天候や季節によるが、できる限り戸外に出て遊んだり、園外への散策活動も多くしている。

子ども達は、元気で素直、明るく人懐っこい子が多い。しかし、日々の生活の中で、話し合いがうまくできないことも多い。

新しいことには興味があり、積極的に取りかかるが、長続きせず、1つの事にじっくり取り組む事が苦手である。子ども達が毎日元気に遊び、色々な経験を通して好きな遊びを見付けたり、じっくり取り組み満足してほしい。

今年度は、職員の異動も多く、これらをふまえて、もう一度子ども達への関わり方や保育の環境構成を見直し、子どもと共に自分たちの成長につなげたいと考え、本研修目標を設定した。

## 4 年間取組内容

- ◆ 4月…園内研修  
今年度の研修目標の決定と年間研修計画の作成  
一年間の研修の方向性についての共有  
指導案作成（形式等）について
- ◆ 6月…園内研修【3歳児研究保育】
- ◆ 7月…園内研修【1歳未満児・1歳児研究保育】
- ◆ 8月…園内研修【2歳児研究保育】（自園で実施）
- ◆ 10月…公開保育・研究協議
- ◆ 11月…園内研修【事例研修】  
「高知県の保護者とともに特に育みたい資質・援助について」
- ◆ 12月…園内研修
- ◆ 1月…園内研修  
交流会に向けての資料作成  
プレイアドバイザーによる保育士研修（4歳児）
- ◆ 2月…13ブロック交流会への参加
- ◆ 3月…園内研修  
研究の成果や課題についての総括から、次年度に向けての計画づくり

## 5 成果

### ①子どもの姿の変容

- ・“その時季にしていた遊びを更に充実させていくには”ということを考えて、遊びの内容を楽しめるように保護者に道具や用具を募り、持ってきてもらったことで、遊びの幅が広がった。
- ・言葉の発語に向けて、子どもの行動・動作に対して、「カンカン」（ブロック同士を叩いた時の音）や、ズボッ（砂場に指を入れた時の音）などの擬音の言葉をつけることができた。それにより、保育士の言葉を真似て遊ぶ子どもの姿が見られた。
- ・好きな遊びがじっくり十分にできるよう、保育室の環境設定（ままごとコーナー・絵本コーナー・物作りコーナー・手先の玩具のコーナー）を見直した。そうすることで、工夫したり友だちや保育者と関わりながら遊ぶ姿が見られ出した。また、遊ぶ時間の保障もするようにした。「明日は続きしたい。〇〇しよう」と期待して登園する子どもも増え、スムーズに遊び始めることができていた。
- ・答えを伝えるのではなく、気付かせる声かけを心掛けたことで、考え、工夫する姿が見られるようになってきている。友だちとの関わりはまだ少ないが、友だちへの意識が向けられているようになってきている。
- ・分からない所を聞いたり、友だち同士で教え合う姿が見られるようになってきた。
- ・日々の遊びの中でやっていることを取り入れ、少しずつ広げていき、「できる」ことを増やしていく方法を考えてみた。これはまだ無理だから…ではなく、やってみて改善していくようにした。その中で、「また〇〇やりたい」という声も聞けるようになった。
- ・子どもが好きな遊びを満足するまで遊べることの大切さ、時間をたっぷり取ることを取り入れてみると、その後の行動がとてスムーズにできるようになった。今までは「嫌、嫌」だったのが、切り替えが少しずつ早くなっている。

写 真

# 5 成果

## ②研修体制に関わる内容

- ・ 乳児期からの関わりの大切さを再確認できた。
- ・ 職員同士の連携の大切さ、1つの目標・ねらいの下に職員が共通意識をもって取り組む事大切さを学ぶことができた。
- ・ 園内研修には、できるだけ全職員が参加し、担任が今悩んでいることを職員一同と一緒に考えることで共通理解をすることができた。
- ・ 職員間で情報を共有し、意見を出し合うこと大切さを学ぶことができた。
- ・ 子どもが成長している姿を振り返ることで今後の保育を考えるヒントになった。
- ・ 4月当初の子どもの様子と現在の子どもの様子を比較し、話し合うこと大切さを学ぶことができた。

写 真

## 5 成果

### ③保育者の意識や保育実践の変容

- ・〇歳児だからこうしないといけないと決めつけるのではなく、子どもの育ちを理解し、一人一人にあった支援の仕方を考える。
- ・子ども達の遊びの選択肢を増やすことができた。
- ・一人一人の性格や発達に応じて声がけすることを意識した。また、困った時のヘルプの仕方を改めて確認し、ヘルプを出しやすい環境を作った。
- ・子どもとの関わりの中で、言葉を用いて伝えることを心掛け、保護者間でも言葉遣いを丁寧にするようにした。
- ・言葉や発達面で配慮がいる子どもについて、共通理解したことに気を付け、関わっていくようになった。
- ・その日の出来事を保護者の方に具体的に話すことを意図的に行い、コミュニケーションをとるようにした。
- ・フォローで子ども達と関わるが多かったので、自分も含め、担任が子どもとゆったり関われるように、早めに対応をして、子ども達がゆとりをもって過ごせるようにした。
- ・何でもとっさに先に言葉で言わず、一呼吸待つ意識をもって接するようになった。
- ・子どもが発見した遊びは、危険な事以外はすぐには否定しない。
- ・子どもの思いに寄り添い、じっくり待つ。
- ・言葉の発達を促すために保育者同士も会話をしてお手本を見せていくことで、正しい言葉が身に付くようにした。

## 5 成果

### ④公開保育を行って

- ・客観的に見てもらうことで、子ども達の様子が分かり、子供理解へとつながった。
- ・子ども達のいいところ、こんなところに興味をもっていたんだと再発見できた。
- ・環境構成のアドバイスをいただき、すごく勉強になった。
- ・しっかりとねらい・願いをもって保育することの大切さ、教材選びへのこだわり、丁寧な関わりも再度学べた。
- ・日々の振り返りと、その繰り返しが大切ということを再認識できた。



写 真

## 6 来年度に向けて

### ①子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

- ・ 友だちの気持ちを聞こうとする力を育てていきたい。
- ・ 友だちと関わりを深める力を育てていきたい。
- ・ 友だちと関わりながら遊ぶことへもつなげていきたい。
- ・ やってみようと前向きに取り組む力を育てていきたい。

### ②研修体制・保育実践・保育の質に関すること

- ・ 満足できる時間の保障を心掛ける。
- ・ 職員間の意見の出し合いを大切にし、連携をもつ。
- ・ やってみたいという子どもの発想を受け止め、大事にしていく。
- ・ 気持ちを受け止め、寄り添う気持ちをもって保護者対応をする。
- ・ 保護者が話をしやすいように明るい声色で話しかけたり、こちらからも積極的に話をしたりするよう心掛ける。
- ・ 子どもだけでなく、親もそれぞれ育ちが違うこと、そのため子どもに対する考え方もいろいろあることを受け入れながら対応していく。